

しんらん同人

NO, 517

6月号

二〇一四年六月一日発行 郵便番号7-1-0052
発行所 東京都豊島区南長崎一の三の八 誓願寺
TEL 39550 78288 FAX 39550 68220
E-MAIL SEIGANJI@RESSET.JP

私も生まれお
ちるときから
お仏ぼんを

親鸞さま！

親鸞さま、あなたがお浄土に往かれて今年は七
百五十二年目でしょうか。

いつもご恩を忘れず放しで申し訳ございません。
忘れ放しというよりも、御恩を御恩とも思わず
すこしております。何というご恩知らずでありま
しょうか。われながらなさけなくなります。わ
たくしもこの世に生まれさせて頂いて、もう八十
年に近くなりました。いつの間にか年を重ねて参
りました。この永い年月、あなたのお蔭なくして
一日も生きてこれなかつたのであります。
生まれた時、そこは浄土真宗の寺でありまし
た。あなたのみ教えをいただいて、お念仏をよろ
こぶ両親が、あなたの教を伝えることによつて生
活させて頂いておりました



ターバン巻いた菩薩像
左手は腰にあてており持ち物
はない。この像は釈迦菩薩を
あらわしたもの

いただいた育てられて参りましたし、否、す
でに母のお腹の中からお育ていただいたいた
のであります。生を受けてから今日まで、全
くあなたのおかげで生かさせていただきまし
た。つまり、あなたが九十年の生涯をかけて
信誓し、体験せられた至上の念仏の世界をお
伝えし、それによつて皆さんに喜んでいただ
き、生活させていただいたのであります。
いつも思うことであります。もしも親鸞さ
まのご出世がなく、絶対他力のお法を聞くこ
とがなかつたら、いま自分はどんな道を歩い
ていたであろうかということでもあります。
弥陀の本願を聞くことができず、仏智の
お照らしに気づかなかつたであります。
自分のおろかさ、罪の深さにも気付かなか
つたでしょう

し、あてにな
るものがない
ということ
も、わからな
かつたであり
ましよう。
本願を信じ
念仏申す身に

六月八日 (日)

聖典講座 (常例)

講師 植木政隆師

昨年九月連続法座出仕
本願寺派布教使

大阪高槻市 速證寺住職

ご家族揃つて御参詣ください

させて頂いたからこそ、今このまま
で撰取の光に包まれ、大悲に抱かれ
て安らかな日々を送らせて頂き、い
つ目をつむつても光明無量の世界に
生まれて、自由自在のさとり身と
させて頂くとは、何という幸せであ
りましようか。

絶対他力の念仏道をひたむきに歩
まれ、煩惱をかかえながら、お慈
悲にみちびかれてゆくのだ、さあ
いっしょに手をつないでゆこう、念
仏申しながらお浄土に参らせていた
だこうと叫びつづけられた、あなた
の九十年の生涯をかけての、そのみ
声によつて、ようやくこの尊い道を
知らせて頂いたのであります。



仏の歩みたもうところ

「仏の歩みたもうところの国や町や村は、どこでも化益を蒙らないところはあります。天下はやわらぎ、時候はおだやかに日や月も清くかがやき 風も雨もよいように、わざわざいが起こらず、国は豊に、民は安らかに生活ができ、戦うための兵士や兵器がいらなくなり、人は徳をあげ、仁を起こし、上を敬い、下をいつくしむ道が自然におこなわれます。」

「仏の歩まれるところは、仏の教えを信ずるところということでありましょう。」

ある国では、ありあまるほど栄えているかと思えば、何百万人という人が、飢え死にしている国もありま

す。国内でも思想や党派の争いがあり、家庭の中では親子の断絶、男女老少の隔絶などなかなか争いは絶えません。

飛行機や汽車の重大事故、自動車事故は毎日起こっており、よほど大きくないと驚かないほど神経も麻痺してしまっているようです。

だれが悪い、彼が悪いと、他人を責め社会を非難し、争いあつております。

真実の世界（仏の世界）から見られたら、あさましい、愚かな、に

ごりきつた世界と見られることでしょう。

世界の人々が、誰しも幸福を願っているから、幸福になれるのはどうした事なのでしょか。それには非常に複雑なことが絡み合っています、簡単に決められないと思いが、世のため人のためといながら、その腹の底には、おれが

という我執があるからではないでしょうか。誰よりも自分自身を一番愛しているのが人間のよう

です。そうした自己の内奥を見つめる事がなかったら、いくら世のため人のためと叫んでも、他の過ちや、政策を責めるばかりで、自分ほど立派な者はないという、思い上がりになってしま

う。

「われ必ずしも聖に非ず、彼かならずしも愚にあらず。ともに凡夫のみ」といわれた聖徳太子のお言葉のように、彼も我もともに凡夫であると知ってみれば、互いに許しあい、拝みあわずにはおれなくなるのではない

でしょうか。

仏法が広まっていけば、国豊になり民安らかな日がくるに間違いありませんが、自分自身が如来の大悲を仰ぎ、自らを深く見つめて念仏申す身にならなかつたら、いつまでたっても平和な時は来ないでしょう。

この混乱した時代を救うものは仏教以外にありません。仏の歩みたもう所とは、自分自身が仏法を信ずるところである事を忘れてはならないと思いが。

質疑応答

問 納骨をするには戒名（法名）がないと納めることが出来ないのでしょうか。

答 あなたのお墓がある場所によつて事情は全く異なります。特定宗教の寺院・教会の付属墓地では、そこにお墓を設け管理してもらうだけではなく、その宗旨に従い、信じ学び、応分の財力をもつてお寺を護持していくことが大前提にあります。つまりは檀家・信徒の一員になるということです。一員になった以上は、ご住職と親しく人間関係を結び、その行事に参加し、本尊さまに参詣し、自分の仏事を依頼することを通じて宗旨を信じ、学び、人生の糧とすると共に、応分の力によつて伽藍、境内などの維持を負擔していくことが求められます。

また、ご住職の側には、僧侶として清貧を心がけ自己を研鑽して教化をはかり、敷居を低くして檀信徒とのコミュニケーションをスムーズにして心の糧を与えることが、自らの責務として自覚、実践

されなければなりません。

いずれの側も汗をかくてはじめて実りを得るのです。

そうした相互関係の中で信心が深まり覚悟も出来たら、応分の布施行によつて戒名(法名)をいただき、正式な仏弟子となるのが、檀信徒のあるべき理想の姿です。法名は仏弟子の証なのです。

しかしながら、人間のことでですから理想の実現は大変難しく、ここに僧侶側と檀信徒側のいずれにも種々の問題が生じるようになります。法名についていえば、僧侶の側にはともすると自己の研讃の怠りを棚に上げて、宗祖・宗旨の権威に寄りかかり、お墓を質にとつて、自発的な布施行を行うことなく戒名料と称する金銭を厚顔にも要求するといったことがあります。また、檀信徒側には、信心を深めず、学びもせずに、世間体や見栄からできるだけ安く良い戒名(法名)をほしがるといった事がありがちです。まことに悲しむべき事態です。

さて、一質問に立ち返りますと、寺院墓地の場合では、戒名を拒否することはその宗旨を否定することにつな

がりますから、納骨は出来ないと心得た方がよいと思えます。そのなりたくないなら、応分の勤めを不断に精進して積み上げていくことが最も近道かと思えます。それを怠り、葬儀や納骨といった、いざという時にのみ自分の都合を要求するならば、僧侶も人間ですから慨然たる思いにかられます。

一方、公営霊園と一般霊園の多くは、特定宗教に関与しない立場を原則としておりますので、どんな宗教でも、また無宗教でもかまいません。従つて戒名がなくとも納骨は出来ます。

しかし、仏縁を断ちたくない、命を頂いたご先祖の宗旨は守つていきたいと考える人も多く、そういう方々は特定の寺院なり僧侶と永続的な関係を結び、仏事を依頼したりしております。なかには仏事の都度、石屋さんなどの仲介によつて異なる僧侶に来てもらうということもあるようですが、これは一時的な場合は別にして、宗教の教えを信じ学ぶという姿勢

がなく、人間関係を深めることを厭い、仏式の形だけ都合するという点で好ましいことではありませぬ。近代合理主義、個人主義の時代、現代風で後腐れなく、こちらの欲求は満たされるからいいんじゃないかという人もあります。私がこれほど互いに不幸なことはないと思えます。

仏教を尊び、少しでもその教えを学び心の糧とした方は、機会を得てしかるべき僧侶と縁を結び、学びの友の仲間入りをするをお勧めします。機会がない、あるいは心当たりがないという方には、身近な寺院なり僧侶をご紹介します。そこまでして仏縁を結びたくない、戒名なんてほしくないとの方は、すみやかに離檀して寺院・僧侶との関係を絶ち、墓所も移して自身の主義主張を通されればよろしいのです。繰り返しになりますが、いずれにしても汗をかかずして実りをもたらされないのでないでしょうか。

釈尚文 独り言

五月十日にお同行の山口新作様がお亡くなりになりました、九十六歳でした。奥様であった故山口トシエ様とご一緒に誓願寺のために色々ご尽力を賜つた事を改めて伺い、一段とさびしさがつりました。

また先日、粉々に傷められた駐車場横の桃の木を伐採しました。明るくはなりましたが、これまでまた寂しさを感じるできことでした。

「諸行無常」 全てのものは移り変わり、一瞬として留まるものはないとはいえ、目の前から無くなるということは、その事物に執着していなくても、具体的に体感する寂しさです。四月に教師の資格を取得、誓願寺婦人会から布袍を贈呈され、今まで以上に責任の重さを感じつつ、自己の様々な心の動きを注意深く見つめ直し、人としての幅を広げ深めたいと考えております。

昨年来、第二・第四日曜

の法座でお話をしていた「七高僧について」も今月で終わりを迎えます。親鸞聖人が正信念仏偈でその功績を讃嘆された方々を順番にたどって行くと、他力本願への道筋が整理されていきます。

七高僧のお名前とその教えの特徴「発輝」は、暗唱出来るようにしてほしいものです。

龍樹菩薩 「難易二道」

天親菩薩 「宣布一心」

曇鸞大師 「顕示他力」

道棹禪師 「聖浄二門」

善導大師 「古今楷定」

源信和尚 「報化二土」

源空聖人 「選択本願」

六月御法座案内

八 日(日) 午前十時 聖典講座

講師 植木政隆師

正午 健康相談

講師 佐藤公彦医師

十五日(日) 午前十時 なかよしくらぶ
二十二日(日) 午前十時 聖典講座

和顔院釈尼英順

前坊守故岡本英子



三回忌法要

六月二十二日

(日) 午前十時

編集後記

◎物忘れのはげしいこと、昨日の事は勿論さつきやったことをすぐは思い出せない。一度終わった事を又始める。

◎「しんらん同人」もやめたら、次は作れない、時間が繋ろうが、なんとか続けていきたい。

◎英子の三回忌を迎える。二年経つたのに何を見ても思い出す、これと一緒に食べたとか、ここでこんな事があつた、詰まらない、いい争いをしたなど。

◎煩惱具足の凡夫とおおせられたることなれば、他力の悲願はかくのごときわれらがためなりけりと

◎今日聖人のお言葉が、しみじみと味わえる。まことに煩惱具足の凡夫である。毎日欲望の追求であり、思うにまかせず腹立ち、しおれ、苦しんでいる。

◎永い間お聞かせに預かつてきた、お念仏も無理なく称えられるようになった。

◎お念仏を離れて考えられない身にさせていただいた。

◎だが煩惱の波に翻弄されて、浅ましい日暮を続けている。全きつわりだらけのである。穢れきつた心である。

◎このどうしようもない者を、かねて知りとおした仏があみだぶつである。

◎煩惱の一つ一つに飛び込みたもう南無阿弥陀仏である。み名と共に生かされている私である。

◎泣くもよし、笑うもよし、みんななむあみだぶつである。しろしめす仏いますときくからは、ただ朝夕にうれしはづかし



◎リキもナナも元気、いつも私のそばをはなれない。こうなる。と。ペット以上のものを感じる。

◎リキとナナにとつては、単に餌をくれるものという事で、慕っているだけかもしれない。

◎ただ犬と猫でこんなにお互い親しく出来るだろうか。どちらにしてもかわいい。